

今後十年以内に消滅する可
立場である。ただしここには、
コンパクトシティ推進とへ
能性のある限界集落。人口減
地域伝統文化の継承の問題と
少時代のなか、市街地へ集住
居住権の問題が存在する。
させるコンパクトシティを推
他方、へき地の限界集落存
進させるべきか、それとも集
続の考え方は、地域社会の歴
落を存続させるべきか。消滅
史、伝統文化、神社、そこに
か存続か。地域によって、あ
住む人々の権利を重視する。
るいは判断する人の立場によ
どんなに時代が変わっても、
って、難しい選択となる。
へき地には市場原理だけでは
集落の統廃合について、反
対派が大勢を占めるなか、少
数だが賛成派もいた。「もとも
とは人間が開発した土地だか
ら、集落が消滅すれば、以前
の自然状態に戻るだけ」とい
うのがその理由であった。

消滅か存続か

コンパクトシティとは、行
説明しきれない郷愁がある。
政の財政状況や経済効率性を
郷愁は市場競争する人々の精
重視して、へき地の住民に市
神や価値観を根底で支え、生
街地に移り住んでもらうとい
きている証しや働く意味を確
う概念である。既存の地域開
認させる。市街地の病院から
発が人口増加を前提に推進さ
遠い集落には、自家消費の野
れてきたことを踏まえ、人口
菜を作りながら、自立した独
減少時代にはこれと反対の発
居高齢者が暮らしている。た
想で、コンパクトな地域社会
だしここには、費用対効果の
壁が立ちはだかっている。
づくりをしていくべきという
いく。厳しい現実である。